

目次

はじめに

- 不法行為責任の道徳的基礎 …………… [棚 瀬] (3)
- 1 不法行為法の危機 (3) 2 道徳的含意 (5) 3 個人的正義 (9) 4 全体的正義 (12) 5 共同体的正義 (16)

I 法と生活世界

- 1 法的思考様式と日常的道徳意識——不法行為法における金銭賠償の原則をめぐって…………… [阿 部] (23)
- 1 不法行為法の危機 (23) 2 金銭賠償の原則 (27) 3 損害の商品化 (29) 4 配慮責任の論理 (32) 5 不法行為法の危機再考 (38)
- 2 システム化社会と責任の再構成——不法行為法の危機をめぐる社会倫理的考察…………… [中 野] (41)
- 1 不法行為法の「危機」とその社会的基盤 (41) 2 過失責任主義の妥当基盤 (44) 3 損害賠償責任のシステムへの転嫁とその意義 (47) 4 「責任＝レスポンスすること」の再構成 (53) 5 法の射程と道徳的コミュニケーション (57)
- 3 日本社会とその紛争解決システム …………… [佐 藤] (61)
- 1 「日本的」な紛争解決の論理 (61) 2 紛争解決プロセスのモデル化 (62) 3 日本的な紛争解決と近代法

- (66) 4 日本的紛争解決システムの現在 (70) 5 制度
選択の問題 (73)

4 現代コミュニティにおける事故補償問題

- [名和田] (79)
1 コミュニティにおける事故訴訟の諸形態 (79) 2 理
論的反省 (86) 3 実践的提言のための基本的論点 (90)

II 法の言説と法過程

1 交渉的秩序と不法行為訴訟..... [和田] (97)

- 1 訴訟機能への現代的要請 (97) 2 不法行為制度の機
能的限界と問題点 (100) 3 日常的「責任」観念の構
造 (105) 4 関係調整型不法行為訴訟の展望 (110)

2 法的言説空間における権力作用の解説... [好井] (117)

- 1 はじめに (117) 2 「一個の人間として向き合う」と
は? (119) 3 「向き合わせない」力をもつ異空間とし
ての法廷 (121) 4 「法廷〈外〉では『ない』ことにさ
れる」裁判官の権力行使 (124) 5 法的言説空間にお
ける権力作用の解説へ——「一個の人間として向き合
う」力の解明へ (132)

3 現代不法行為法における道徳化と脱道徳化——実定法 学からのコメント [内田] (135)

- 1 いま不法行為法を問題とすることの意義について
(135) 2 不法行為法の分化 (137) 3 第二類型の分化
の原因 (140) 4 第三類型の分化の原因 (143) 5 「関
係」のとりこみについて (144) 6 第四類型の分化の

- 原因 (146) 7 不法行為法の将来 (147)

4 不法行為法における「不運」の位置について

- [嶋津] (149)
1 はじめに (149) 2 不法行為法の目的 (151) 3 不法
行為責任拡大の限界 (160) 4 おわりに (173)

5 不法行為をめぐる法的言説と日常の言説

- [松浦] (177)
1 はじめに (177) 2 人間心理と優越的言説 (179) 3
当為問題に関する二つの言説 (181) 4 不法行為法を
めぐる優越的言説と人間心理 (185)

III 制度の論理と倫理

1 損害賠償制度の展開と「総合救済システム」論——榎 瀬教授の批判によせて [加藤] (193)

- 1 はじめに (193) 2 批判にこたえて (194) 3 不法行
為制度の問題点 (199) 4 総合救済システムの提言
(203)

2 損害賠償法理の道徳的基礎と民法理論... [松本] (209)

- 1 はじめに (209) 2 不法行為責任の拡大傾向 (211)
3 共同体的正義論と民法 (218) 4 むすび (223)

3 不法行為法の「危機」と「革命」の意義——アメリカ の医療過誤訴訟を例にとって [樋口] (225)

- 1 不法行為法の「危機」(225) 2 アメリカにおける不
法行為制度の危機と改革の意義 (228) 3 加藤教授の
総合救済システムと不法行為の「危機」(231) 4 アメ

目 次

- リカの医療過誤訴訟における「危機」の実態 (236)
- 4 交通事故被害者損害賠償の法理と道徳——フランスの
制度変遷の理解を通して …………… [河 合] (241)
- 1 序 (241) 2 交通事故被害者損害賠償制度の変遷
(242) 3 自由主義的個人主義と社会主義 (246) 4 リ
クス管理 (250) 5 個人と個人の関係 (253)
- 5 法と感情——社会心理学的視点 …………… [山 岸] (257)
- 1 相互信頼の低下に対する対応 (257) 2 内発的動機
づけと帰属 (259) 3 社会的ジレンマのコンピュー
タ・シミュレーション (264) 4 まとめ (268)
- 6 共同体と責任——棚瀬理論への法哲学的応答
…………… [井 上] (269)
- 1 法哲学的論争状況と不法行為法の危機 (269) 2 配
慮と責任 (276)

ま と め

- 法の意味了解とコミュニティ …………… [棚 瀬] (291)
- 1 問題の所在 (291) 2 法の意味了解 (295) 3 法言説
の再構成 (304)

索 引